

メディア・リテラシー

身に付けましょう

現代社会に生きる私たちは、日々の暮らしの中で、メディアが発する大量の情報にふれています。ここでいうメディアとは、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのことです。

メディアが発する情報は、どうしても字数や時間の制約を受けるために、情報量は制限され、単純化され、それゆえ内容や背景を十分に伝えきれない場合があります。また、発信者が偏った見方をしている場合、情報の内容が固定化された概念を生み出すおそれがあります。さらに受け手が、背景等も含めて十分理解していないために、このような概念を鵜呑みにしてしまうこともあるでしょう。悪気はなくとも、そのまま単純化・固定化された概念を広めてしまう場合も考えられます。

そして、このような概念がある事柄に対して否定的・攻撃的な場合は、偏見や差別を生むことにつながります。今の社会において、情報は欠くことができないものですが、あまりにも量が多く、精査・検証されないまま流されてしまうものがあります。

このようにして流される情報を無意識に受け入れていくと、結果的に誤った概念を身に付けてしまうことになりかねないのです。そこで重要視されるのがメディア・リテラシーという考え方です。

メディア・リテラシーとは、メディアが発信する情報を主体的・批判的に読み解き、必要な情報を引き出し、その真偽を見抜いて活用する能力のことです。これまでは、メディアの視聴者や読者、閲覧者などは、情報の一方的な受け手としてとらえられていたのですが、メディア・リテラシーの考え方では、主体的な受け手としてとらえます。

では、この考え方をみていきましょう。

メディアの情報は、

- ・発信者が意識的にまたは無意識的に選択し、優先順位をつけている
- ・公共のもの以外、ほとんどの場合、商業的側面(利益の追求)があり、受け手の考え方や価値観に影響を与えている
- ・社会的・政治的な意味を持ち、社会や政治の動きに影響を与えている

さらに、受けとる側にも、

- ・性別・年齢・家庭の状況・人種・文化的背景・道徳観・ニーズなどによって、受けとり方が異なる
- ・これらのことを踏まえたうえで、情報を適切に活用していくことがメディア・リテラシーの考え方なのです。情報はあるのままの真実を伝えていくのではなく、発信者というフィルターを通して伝えられていることを承知して、発信者の意図は何なのかなどについて、頭の隅に置いて情報と向き合うことが大切であると考えます。

メディア・リテラシーを身に付けて、でたらめな情報や、人権が尊重されていない情報などに惑わされないようにしましょう。

(参考:「じんけん」徳島県高等学校人権学習資料集)

市人権推進課(市教育庁舎1階)
 32・2122
 FAX 33・3525
 Mail:jinkensushin@city.komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (377) 松並敦子・選

眉山を借景となす焼餅屋にモラエス好みし黄花垂麻咲く

横須町 福島 夢栄

三尺の小川を飛びし若き日の幻追いつつ廻る畦道

立江町 湯浅かや子

忘れずに今年も届きたり友よりの蜜柑と野菜は手作りのもの

横須町 三宅 敏恵

コスモスは抜かれて隅に捨てられて未練の花が二、三輪咲く

柳瀬町 松下 玉枝

脳トレで足し算引き算賑やかに間違いない探しは私の得意

田浦町 太田カツミ

菊の苗夏の猛暑に皆枯らし淋しき庭に葉牡丹の鉢置く

赤石町 田原トシ子

スナックかスナックなのかさ緑のこのエンドウの春の味が好き

和田島町 瀧川 益美

朝霧に見え隠れする霊峰の弥谷山に合掌礼拝す

田浦町 西 教明

国も然り令和二年の我がメモは心痛きことばかり堪え来し

江田町 深田 伴子

枯れるもの緑なすもの銘銘のたまたまい見せ冬の陽のなか

横須町 山崎 泰子